

# リメンバー新聞

## 78号

2016年4月7日

編集・発行  
リメンバー名古屋自死遺族の会  
<http://will.obi.ne.jp/remember/>  
[remember\\_nagoya@yahoo.co.jp](mailto:remember_nagoya@yahoo.co.jp)  
FAX:020-4668-8925  
郵便:〒612-8799  
京都府京都市伏見区撞木町1148  
伏見郵便局留 リメンバー名古屋

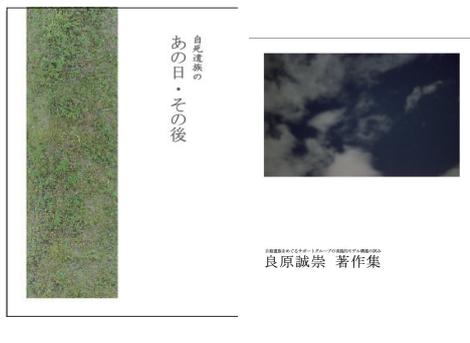
2016年  
3月

## リメンバー発行冊子増刷

愛知県の地域自殺対策緊急強化助成金により、リメンバー名古屋でこれまで発行した冊子を増刷しました。

2009年3月に発行した「自死遺族の文集」、2011年3月「自死遺族の手紙」、2014年3月「良原誠崇 著作集」、2015年3月「自死遺族のあの日・その後」を、今回増刷しました。

これまであまり部数が残っておらずお渡しできなかったものも含め、今後遺族会の時に無料でお渡しします。ご希望の方はお知らせください。



4月17日(日)

## 春の遠足

4月17日(日)に、恒例の春の遠足を行います。遺族会で会うみなさんと、春の一日一緒に出かけませんか。

遺族会は2ヶ月に一度しかありません。普段から支え合える関係を作っていければという思いで行っております。

今回は愛知牧場でバーベキューを行います。食事を共にしながらゆっくりと過ごしましょう。

お申し込みは、4月10日までをお願いします。詳細はお申込みの方にお知らせします。

※ご希望の人数が少ない場合、中止とさせていただく場合があります。

## 新聞郵送をご希望の方へ

1月～6月末までのお申し込み(前期)…1000円 もしくは 82円切手(80円切手も可)13枚

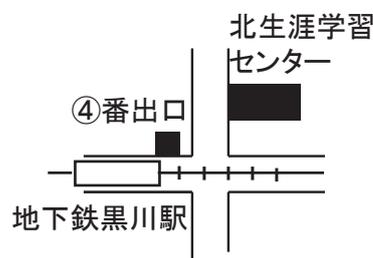
7月～12月末までのお申し込み(後期)…500円 もしくは 82円切手(80円切手も可)7枚

お申し込みは、郵便番号・住所・氏名を記入の上ご送金いただくか、切手をご郵送ください。遺族会の当日、受付でお支払いいただいても結構です。

## 次回の遺族会

第75回

4月10日(日)13:15から  
名古屋北生涯学習センター  
地下鉄名城線「黒川」下車  
(4番出口)よりすぐ  
参加費:500円



その次は・・・

第76回 2016年6月26日(日)  
北生涯学習センター

日程は、ホームページまたは、電話案内でご確認いただけます。  
パソコンの方  
<http://will.obi.ne.jp/remember/>  
携帯電話の方  
<http://www.will.obi.ne.jp/m/>  
電話案内(録音でのご案内)  
090-8544-9408

## 郵送先住所が再度変更になりました

2016年2月1日から郵便物送付先住所が変更になりました。  
〒612-8799  
京都府京都市伏見区撞木町1148  
伏見郵便局留リメンバー名古屋

## スタッフ募集

遺族会に参加したことがある方で、会の活動のお手伝いをいただける方募集しています。  
詳しくはお問い合わせください。

## 次回「ディアレスト」のご案内

家族ではないけれども大切な人を自死で亡くされた方を対象に、2ヶ月に1回、遺族会「ディアレスト (Dearest)」が開催されています。

日時: 2016年5月22日 (日) 13:30-16:00

場所: 名古屋市中村生涯学習センター

地下鉄東山線「本陣」駅4番出口より徒歩5分

対象: 家族以外の人(恋人・婚約者・パートナー・親友・同僚・上司・部下・先輩・後輩・先生・生徒、など)を自死(自殺)で亡くされた方

参加費: 500円

連絡先: the.dearest1@gmail.com <http://dearest.heya.jp>

## 次回「～こころの居場所～AICHI自死遺族支援室」のご案内

以下のように開催されます。詳しくはホームページ等をご覧ください。

日時: お問い合わせください。

場所: 東桜会館 第一会議室

地下鉄新栄、高岳両駅から徒歩5分

参加費: 500円

連絡先: cocoroibasyo@yahoo.co.jp

090-4447-1840

水・木 15:00~20:00 日曜日 18:00~20:00

<http://cocoroibasyo.org/>

## 次回「いっぷくどころ」のご案内

さまざまな宗派の僧侶の方が集った「いのちに向き合う宗教者の会」により、自死遺族と宗教者による分ち合いの会「いっぷく処」が開催されます。平日での開催となります。

日時: 2016年5月30日 (月) 15:00-(14:30開場)

場所: 真宗大谷派名古屋東別院対面所

(東別院内)

地下鉄名城線「東別院」下車

連絡先: info@inochi.in <http://inochi.in/>

## 自死遺族向け面接相談 (無料)

○愛知県精神保健福祉センター

要予約 052-962-5377 毎月第3木曜日 午後2時-3時30分

○名古屋市精神保健福祉センターこころば

要予約 052-483-2095 毎月第3火曜日 午前10時-12時

## 電話相談のご案内

自死遺族に限らない、幅広い窓口です。

○あいちこころほっとライン365

愛知県精神保健福祉センター 毎日 9:00~16:30 052-951-2881

○名古屋市こころの健康電話相談

名古屋市精神保健福祉センターこころば 月-金 12:45~16:45

052-483-2095

### りめんぼー

「問いかけたいことはもうなくなっていた／答が分かったからではなく／答が分からないことが答だと知ったから」

谷川俊太郎さんのこのような詩の一節を最近目にしました。この詩も人の死をテーマにしたものですが、自分自身、身近で亡くなった者に対する「なぜ」という問いかけ、「死」そのものに対する問いは、10年以上経過した今でも答は得られないままです。そして、時とともに、答を必死に求めようとはしなくなったのを感じます。それは、もはやどうしてもよくなったわけではなく、答が得られないこと、分からないことを、少しずつ受け入れようとしているからのように思います。

問いかけることは、答がきっとあるはずだと信じることであり、答への希望でもあります。答がわからないことが答だと知ることは、解決し満たされることではなく、その希望を失うことでもあり、答のない正体の定まらないものとどう付き合っていくのか、どう受け入れて生きていくのかという、新たな格闘の始まりでもあります。

人の死、中でも自死は、答のない、ただ静かに受け入れるしかないことなのかもしれません。「答が分からないことが答だと知った」人間はその先どう生きていけばいいのか。谷川さんの詩の次に加える一行は、自分で探すしかないのでしょう。

(KN)